ちょっと名大史

193

愛知医学校の甲種医学校認可と四医学士

今年3月、名古屋大学は文部科学大臣から「指定国立大学法人」に指定されました。名大史において、こうした国の指定や認可の歴史をたどっていくと、その最初の重要な画期となったのは、愛知医学校（医学部の前身）が「甲種医学校」として認可されたことです。

1882(明治15)年5月、文部省は「医学校通則」を定めました。この頃、全国で医学校が盛んに設立されましたが、学校によってその内実にばらつきが大きく、文部省はこれを統一しようとしたのです。

医学校通則は、医学校を甲種と乙種に区分しました。甲種は修業4年以上で、通常の医学を教授し医師を養成する学校とされ、乙種は修業3年で、簡易の医学を教授し医師を速成する学校とされました。また、甲種医学校の卒業生には、無試験で医師の開業免状が与えられました。

甲種の認可には厳しい条件が付せられました。それは、東京大学医学部を卒業して「医学士」の学位を取得した者を、3名以上教諭とすることです（乙種は1名以上）。東京大学は1877年に設置されたばかりであり、この条件を満たすのはかなり難しいことでした。

しかし、すでに愛知医学校は、お雇い外国人に頼らない医学校をめざし、鈴木孝之助（1880年9月）、奈良坂源一郎（81年10月）、熊谷幸之輔（同年11月）、小倉開治（82年6月）の4名の医学士を一等教諭として迎えており、その他の点でも認可水準を大きく超えていたため、問題なく1883年1月に認可を受けることができたのです。この4名の月給は120円と、当時の後藤新平校長の90円を大きく上回っていました。

もちろん、これだけでその後の発展が約束されたわけではなく、この頃に甲種となった20以上の公立医学校のうち、現在も後身の学校が残っているのは、愛知医学校、大阪医学校（現大阪大学医学部）、京都府医学校（現京都府立医科大学）の3校のみです。

鈴木孝之助（1854－1945）
愛知県出身。専門は呼吸器科。1883年1月に後藤新平の後任として愛知医学校長となるが、同年10月に海軍省に入る。のちに海軍軍医の最高位である海軍軍医総監となった。

奈良坂源一郎（1854－1934）
宮城県出身。専門は解剖学。1921年まで愛知医学校、愛知県立医学専門学校等で教鞭を取り、盟友である熊谷校長を支えた。博物学の分野でも大きな足跡を残した。

熊谷幸之輔（1857－1923）
秋田県出身。専門は外科。1883年10月に鈴木孝之助の後任として愛知医学校長となる。以後1916年まで、愛知医学校及びその後身の愛知県立医学専門学校等の校長を務めた。

小倉開治（1855－1908）
福井県出身。専門は眼科。名大医学部眼科教室の創始者とされる。熊谷校長が不在の際はその代理を務めたという。1895年に愛知医学校を退職し、名古屋市内に眼科の病院を開いた。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む

NAGOYA UNIVERSITY プロジェクト NU MIRAI

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定基金

名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。

工学　ベンチャー　青色LED　医学未来人材　アジア法律家　病院　女性リーダー　図書館　経済100周年　修学支援　ジェンダー　農学　保健医療リーダー　ITbM　附属学校　創薬　PhD登龍門　理学　教育70周年　博物館

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。
詳しくはホームページをご覧ください。

名古屋大学基金　http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/　アクセスはこちらから▶